

# ハンバーガー1個で為替レートを読む、ビッグマック指数 (Big Mac Index)

記事のURL

<https://www.gklibrarykor.com/ja/article/10741/>

PDFレイアウトのプレビュー - 本文の一部のみ

海外旅行に行くと、同じハンバーガー1個でも国によって値段が違うことにすぐ気づきます。ある国では自国のお金に換算するとかなり高く感じ、ある国では驚くほど安く感じます。味も大きさもほとんど同じ物なのに値段がこれほど開くなら、その差には2つの国のお金の価値をめぐる話が隠れているのかもしれませんが。この考えを気の利いた形で数字にしたのが「ビッグマック指数 (Big Mac Index)」です。ビッグマック指数とは、簡単に言えば「世界各国のビッグマックの価格を比べて、各国の通貨が適正な為替レートより高く、あるいは安く値付けされているかを推し量る指標」を意味します。イギリスの経済週刊誌エコノミスト (The Economist) が1986年から毎年発表しています。本記事では、ビッグマック指数が生まれた背景から、その土台となる購買力平価説、実際の計算方法、そしてこの指数が抱える限界とさまざまな派生指数までを順に見ていきます。ハンバーガー1個で為替レートを読む、ビッグマック指数の仕組みと使われ方 ビッグマック指数はどのように生まれたのか ビッグマック指数は、初めから本格的な分析ツールとして作られたものではありませんでした。(1) 半ば冗談として始まった1986年9月、エコノミストの記者パム・ウッドール (Pam Woodall) が、難しい為替理論をわかりやすく示そうと、半ば冗談のように打ち出したの